

## 冬休みオブショナルSP

### おもいきりスキーチャレンジ!3days!

「頂上からすべってみたい。でも、やっぱり無理かも、でも行ってみたい気がする」。モヤモヤ。3日目の朝、子ども達の心は揺れ動きます。(何だか足痛いかも)、(何かしんどいような気がする)(何か滑りかたわすれている気がする...)。2日目に頂上から滑りおいたチームのみんなからは「あれは大変ヤツタ」と聞くと、急に気持ちはしぼんでいく。挑戦してみたいからこそ、迷う気持ち。子ども達の力なら、安全に行けると判断したスタッフから一言。「気持ちの問題、気持ちを奮い立たせて、行くぞ!!」気持ちをみんなで奮い立たせて行くと、やりました!全員頂上の、上級斜面を無事に滑り降りてくることが出来ました!! 子どもたちの得意げな顔ったらありません! しかし、本当によく頑張った、頑張れた。心の底から、よくがんばれたねと言ってあげられる活動でした。



▲いざ、頂上直下のバーンに挑戦

心の葛藤を乗り越え、一步踏み出すこと。きっと、生涯に、何度も出会う場面。一子ども時代に、歩踏み出せた経験を持つことはとても大切。(ただし、無謀ではなく、安全上問題なければです。)

ジュニアコース「グループビバーク」



アドベンデキタ?!

冬本番、風邪などひかぬよう、みなさま、お体ご自愛下さい。

リトルコース「トンネルたんけん!!」



子どものための自然体験学校「アドベンチャーキッズスクール」活動レポート  
**adven Dekita?!** -アドベンデキタ?!- 2019.1月(2018年度.VOL6)  
 発行:「アドベンチャーキッズスクール」実行委員会 大阪事務局  
 枚方市茄子作1丁目41番23号 野外体験学習事務所/パワース・アウトドアエデュケーション内  
 TEL 072-854-2681 FAX 050-3737-1157(FAX専用回線)  
 E-MAIL info-powers@office.nifty.jp URL http://www.powers-outdoor.com



## Adventure Kids School

子どものための自然体験学校「アドベンチャーキッズスクール」活動報告

Report "adven Dekita?!" -アドベンデキタ?!

# adven Dekita



キッズコース6「チャレンジハイク!」ゴール15km地点にて。

2019.Jan

## 各コースの活動報告

### キッズコース

いつもの集合場所、枚方市駅から歩いて、15km先のゴールをめざした「チャレンジハイク」。歩くということは、人間の基本動作に関わらず、最近では歩くことが少なくなってきました。しかし、子どもたちは、歩きます！歩けます！淀川沿いを、時に、大きな茅を肩に引っさげ歩く。河原に出られる秘密の道を見つけたら、そこに入って、探検、かくれんぼうをして、また行く、行ける！13km地点の八幡市までは軽い足取り。しかし、あとたった2kmが甘くはなかった！足も痛み、時に道ばたで座り込む。でも、あきらめたくない！活動時間内ギリギリ一杯、ゴールの15km地点淀駅で、にこにこ顔の写真も撮ったキッズでした。

### 「チャレンジハイク！」



▲よく、完歩しました。さいごまで、がんばりぬけた経験、とても、大切

### ジュニアコース 「グループビバーク！」

テントの代わりになる、手作りの物を作って、そこに実際に、1泊してみようという、このキャンプ。グループで、資材を考え、予算内で購入し、作り、本当に宿泊してみました。柱を真ん中に立てたティピー型のテント、四角形の箱形の木のお家。竹の骨組をしっかりと組んだ四角のテント、断熱材を壁にした三角のお家。12月の寒空に、防寒着を着込んで、寝袋、毛布にくるまり、いざ就寝。当日の夜は、マイナス4度まで下がり、テント代わり手作りの物の壁は凍り付くほどでしたが、朝起きてきて、ホットココアを飲む子どもたちの顔は、勇ましく、「寒くなかった」「寝られたー！」「やっぱり、寒かった！」と、口をとんがらせ、想い想いを教えてくれたのでした。



▲ドキドキもしたけれど、-4℃で寒かったけれども、グループのみんなでやり抜くことができました。挑めた自分、やり抜いた自分っていいな、強いな。そんな自己肯定感が育まれることは大切。

### 冬休みプロジェクト

北海道で犬ぞりに挑戦するこのキャンプ。マイナス15度、山小屋生活、犬ぞり、パウダースノーと、関西に暮らす私たちとは全く違う、生活、価値観、行動がたくさんありました。自分達を乗せて走ってくれる犬たちに、自分達は何をしてあげられるのか？エサやり、水やり、可愛がる、そして、ウンチのお世話。嫌がることなく、ウンチ取りは大人気。犬とコミュニケーションを取り、雪の原生林を犬ぞりで走る！ゴール直前では犬たちも息切れしながら走る。そんな犬たちを、そりからおいてなでてあげる、ほめてあげる、そして「ありがとう」を伝える。言葉が伝わらない分、自分のありがとうを一生懸命行動で伝える子ども達。犬も子どもも何とも言えない表情をするのでした。

### 「スノー&犬ぞりチャレンジ！」



▲日常の自分の価値観とかわれず、色々な生活、価値観に触れ、自分を拓げていってほしい。自分の価値観を拓げていってほしい。子ども達が大きく育っていくために、きっと大切なこと。

### リトルコース 「トンネルたんけん！」

「子どもたちだけで行ってみたい！」と、2個目のトンネルからは、子どもたちだけでの真っ暗なトンネルの探検がはじまりました。トンネルは、廃線跡に残るトンネル。その昔、車が走っていたトンネル。電灯などももちろんなく、長いものでは、本当に真っ暗で先は見えません。ヘッドランプ、懐中電灯を点けて、リトルコース2年目のメンバーを隊長に「みんな！さあ、行くぞー！」。ほどなく（ワー、わー、ワー!!）、そして（キャー、キャー、きゃー）。ここまでではスタッフも予想通り。しかし、何やら急に子どもたちの声が静かになり、神妙に（ほんまや、ほんまや。すごおー！）（見せて、見せて。ほんまや!!）。トンネルの中で、ぶら下がって眠るゴウモリを見つけて、大興奮。みんなで、いさましく6個のトンネルを抜け、約7km先の現在の駅に到着したリトルでした。



▲子ども達だけで、まぶらなトンネルへ、行ってみたい。みんなでもより、トンネルの中で、この光を見つめ、大興奮。これも、子ども時代のまほうけん、ちようせん。

### オプション 「ミステリーツアー！」

隠された指令書を見つけ出し、指令書の暗号を解くと、次なる行き先がわかる。謎のゴールを探す1泊2日の子どもたちの旅。カウンセラーは、安全確保についていくのみですので、時に、大人も想定外の場所へ、意気揚々と進むこともあります。和歌山城へ行くべきが、色々な試行錯誤を重ね、岸和田城へたどりつく。いくら探しても次なる指令書があるはずもなく、そこでようやく気づいて軌道修正。無事、和歌山城へたどりつき、その後も順調に旅し、1日目の宿泊場所までたどりつきました。「お城2つ見てきたのは僕たちだけ！」と、旅のアクシデントを誇らしげに話す子どもたち。冒険してきたんだなと感じる活動でした。



▲岸和田城にて。本当の子ども達の過程を大事にしてあげたい。回り道しても、頑張って旅してきた自分たちって、いいなと想ってほしい。ちなみに、今年の最終ゴールは、潮岬でした。